

112 M. Oda

No.136 BASTOS12-OUTUBRO-1952 O PROGRESSISTA REG. 4576 SAO PAULO A.P

バストス週報

第百廿六号 昭和廿七年十月十二日 発行

登録名義人 森幸一 代理 バスト自治会 C.P. 26

代 誌 一ツ年六十新 外部七十新 発行所 祭行所 バスト週報社 RUA PRES. VARGAS C.P. 112 発行人 織田栄吉

週報社へ 廣告は

高僧の巡錫を迎ふ

東本願寺法主大谷光揚師は東方と共に未伯以来パラナ、奥ソロと席の温まる暇も無く巡錫の旅をつづけられ信徒は法悦の赤心を吐露して各地とも熱狂的奉迎の振りであるが既報の通り十月十一日午時橋自治会長邸に到着され十一月一日午時法会執行、御親教、東方中撰、挨拶、帰敬式と壯嚴裡に滞りなく諸式を終った(次号にて詳報)

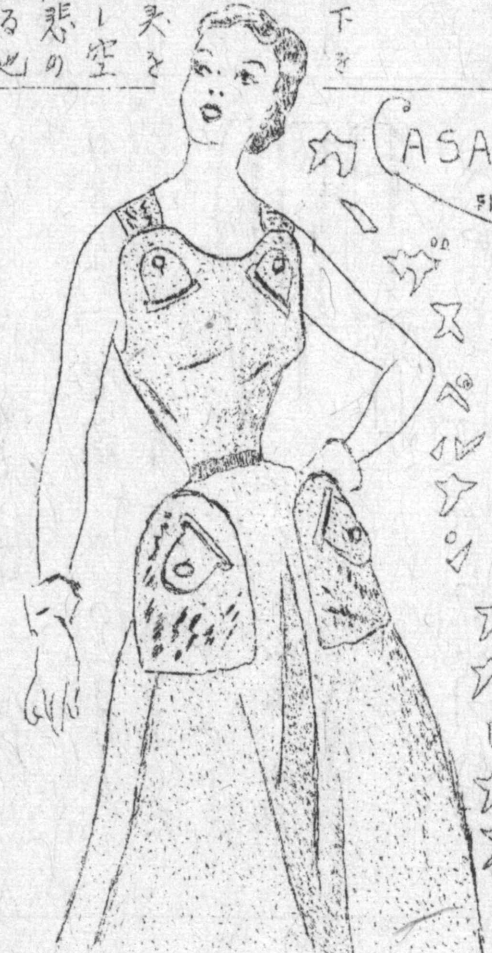
石橋自治会長の追悼文

本日茲に東本願寺法主大谷光揚親下き迎へ奉り今次世界大戦の終りと致し我々が戦双将士の英霊を祀り壯嚴なる大法會を修せらるるに當り、併せてわがバストス移住地開拓先死者の諸英霊も御法の慈雨に浴せしめらるるは蓋し空前の盛典にして佛縁の深奥なる、慈悲の宏大なる、只管感念合掌の外あらざる也。誰ふに生を母國に享け天孫繁栄の礎となりて蕙國の鬼と化すも、一介の移民とて八紘一宇の先肥となり異郷に骨を埋むも、此水等しく使命を果す所以にして民族祭辰の大義に輕重ある可からざる也。奮勵して公民の誠を致すと更へとも母國に想を託ること瀕りなるは何ぞ、祖國の復興未だ必ずしもわれらの意を安きに置かず、郷人未りて語れどもわが空虚を満さざる也。

戦後の事情複雑をさわむるの秋、祝下此の地に巡錫し誠の光、永劫の佛法を仰躬を以て宜く傳へ給ふ、斯くの如きは我禍天災を超えて佛恩の宏大無辺なるを知らしめ衆生の道に炬火を点するもの、慈愍何を以て之に応へんや。願くは諸英霊よ安んじて涅槃に未り會せよ、彌陀の淨土は諸英の爲めに將に開かれんとせり、再々の機又とある可からず高僧の御經に我ら共に声を和し諸英成佛を祈りてやまほ、以て追悼の詞とす。昭和廿七年十月十一日

石橋自治会長 見

FAZENDAS ASAS PERNAMBUCANAS FILIAES EM TODO O BRASIL



謹んで日本人諸君の尊敬する Arcebispo Buddhista 大谷光揚師の御来植を歓迎いたします

当店は常に日本人諸君の御引立を感謝し最も安い値段で最もよい呉服及物を差上げ居ります

西聯者困長追悼の詞

あよそ一國の興亡には幾多の犠牲が拂はれるものであることは古今東西の歴史によつて明かでありませす。今次世界大戦に於て我同胞の流した血潮は北は滿蒙の曠野に南は絶海の孤島に、今尚枯木拾ふ人なる、嗚々たる悲風、心耳をうづもつてあると聞いて居ります。聖戦の陰に民族自覚の裏に声なき礎石とて祀らるる英霊の英霊に對して我ら青年は衷心よりその英霊に感射しその英霊を慰撫しなればはなりません。又百バストス同拓に當り志を得ずし七歳れとも不慮の死を遂げたるもの或は夭壽を全うして逝きしもの二十余年の開拓史にまつわつて墓標は所狭く、葬に到りませんでした。戦に死し平和に逝くもとより生者必滅の條理とはいへ先人の骸の上に打ち樹てて、移民文化の悲哀は餘蘖々として言葉に盡しがたきものがありませす。今次高僧光揚親下の高僧によつて是等諸英に慰籍を賜はる事は何といふありがたい事でありませうか。(次頁へ)

願くは地下に眠れる諸々の灵よ、重なる丁史
の一頁を飾る尊き諸々の灵よ、法主親下りあら
たかな終文の功德に就て成佛し給はんことを
謹しんで弔い申上げらるるものであります
一九五三年十月十一日

バスターズ聯合青年団長
一正 徹

感に打たれた話

(比多商店主の談)

シヤカラの今井さんの息子さんがランシヤリア駅
前でガソリンポストをやって居なされた、ところが
風を引いて咽喉がガク／＼するよってに、シヤ
ロツペをガブリとのみやはったホナ、するとその
シヤロツペが古うていたんだのやろな、ひかい
中まで、僅か三十分ばかりのうち、コロリと参
らったんで……。比多さんの大阪へんを筆
記するのは大変だから日本語にホンマにする、
十月二日のこと、比多さん付ランシヤリア道、お
茶式に行ったが、駅前から茶列が青々とシヤ
ロもある墓地、市中を通り行ったのだが、数人
の男が棺を提けて十字架を先頭に進んでゆ
くと、両側の商家の人々は、いそいで家の戸を
半開にして、鋪道に並んで丁寧な礼をしたり十
字を胸にかいたりして見送り、しばらくして九の
様に戸を開ける、あの長い糸並毎に一人のこら
お、その様子を見て茶列を自礼して送ったのであ
る、比多さんは感心してそのことを尋ねると、い
つでもその通りにするとの事であった、
ここで又大阪へんとなる「わしはホンマに目がしら
が熱うなつて、まア何たら情義に厚い、え
え習慣やろと、ホト／＼感激してしもうた、
日本人ばかりエラウて、けとうと馬鹿にしている連中
に、こいつ立派な習慣を实践して、伯人社会
を見て大いに反省し、大いに見直したといっている、
バスターでもせめて市中からは勿論、市中を通る時
だけでも棺を提けて死者を葬送したいものであ
る、西氏が米俵でも運ぶようにカニオンで突進す
るのは何となく死者と粗末にするようで、なまけ
ない、よい事は、卒直に見習うようにしたいと
比多さん、しきりに之を訴へ、提唱してこれと
長々と大阪へんで一席やった。
区長會であったとき、なにか此の事をもち出
して、比多さんの提訴をきいて上げませんが

大根 ニユース 第二号

〔養鶏場 BASTOS 十二日祭〕
カーザ植木發賣の早生大根は五十日前
後に立派に成育し葉も大根も肥大なる上、
葉を欠いても欠いてもあとがう／＼ぐんぐんのび
る、トウの立たないのが特長といふ。

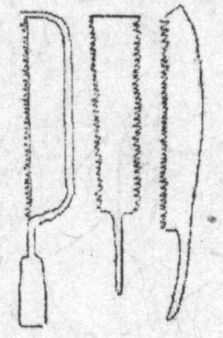
〔野菜農場 BASTOS 十二日祭〕
カーザ植木發賣の早生大根夕ネは五十日
前、立派な商品となり、抜かずに長くおけば
お角力さんの股のように太るなるが花が咲か
ないといふ。

何といふ不思議な、大根だらうと、カーザ植木へたッ
ねる人で門前おすま／＼の盛況とある(廣告)
まさむねのめいとう

おもち帰りになれて、もしも
ナマクラが ありますれば何
日でも お取替へ致します

保証付きの
ノコギリ のこぎり 鋸

有名な「齋藤」ののこぎりが
着荷いたしました



片齒、両齒、引割リ
その他いろいろな型あり

代理店 太郎田商店

仙人掌社 十月例会

去る十月五日、仙人掌ではシヤカラ吟行を来月に
延期し当日は糸音居で例会を開いた、果會
者十六名成會であった、並題接木、菊着葉、
寄居虫序題、竹落葉、釣堀

高島白左の通り
糸音居秀の租歌に朱を入れ菊着葉 糸音
四角落ち相鼻の目鏡や接木老 北眼
三浦浦傳ひ寄居虫採るか面白し 菊子
不器用と云はれし接木皆育ち 秋扇
一切をハ素直に接木かな 水仙子
寄居虫やせまいる間をぬい功れず
繡帯に深く包まれ接穂の芽 北眼

仙人掌句会のり、
 三点的寄居虫や逢へずには帰る恋の秋
 釣堀や池底にともる青き燈
 北斗 三点的 小やれいに老師棲へり菊若葉 赤香
 日本間の障子あかるし菊若葉 赤香
 尚次會は十月二日兼題更衣、筍、草取り、場所シヤカラ角藤氏方士時半より、同好者参加を歓迎す

◎ジヤルジネイラ・ホント建設寄附芳名發表。 第一回

此の度ジヤルジネイラ・ホント建設に当りまして皆様の絶大なる熱意と御支援により、
 一回の出資寄附金發表の出まます事と厚く御 礼申上はます

一金拾五	松尾精一殿	一金五	早川栄松殿
一金拾五	湯井炳桂殿	一金五	池内藤茂殿
一金拾五	草原秀雄殿	一金五	黒木富藏殿
一金拾五	佐々木久輔殿	一金五	米沢則秋殿
一金拾	榎常孝殿	一金五	麥菊文殿
一金拾	小茂田光明殿	一金五	奥田民藏殿
一金拾	前山義雄殿	一金四	山本一男殿
一金拾	三野善一殿	一金四	岡本勲殿
一金拾	池田正雄殿	一金四	菊池豊殿
一金八	水口バール殿	一金三	杉山寅藏殿
一金八	平井敏雄殿	一金三	池内富子殿
一金七	高田重利殿	一金三	小松好五郎殿
一金七	木村久摩一殿	一金三	小橋殿
一金六	永吉久男殿	一金三	アトロクソン殿
一金六	藤原作久栄殿	一金三	小池源衛殿
一金六	喜多徳之助殿	一金三	中島善次殿
一金六	上島香雄殿	一金三	中城桂殿
一金五	後藤栄藏殿	一金三	大塚唯次殿
一金五	又原元貞生殿	一金三	坂東啓次殿
一金五	前田育人殿	一金三	増田良雄殿
一金五	藤井殿	一金三	永吉傳之助殿
一金五	田中讓殿	一金三	

建設委員長 榎 常 孝
 副 三野 善 一
 會計 小茂田 光 明

聯合青年団役員會

去る十月七日の協議事項

聯合青年団にては去る十月七日佐野会々室にて
 団長会を同値左の件を申合せた

- 一、大谷光陽師夫妻末植の節(十一日)青年団
 員挙げて出迎へをすること 各団、男女一
 名宛大法会に連中文朗読すること、十三日
 歡迎会には各支部二名位づゝ出席すること
- 一、去る十月七日頃 辯論大會に代る可き意見
 表會の如き会をなすこと、 以上

第二回文化研究會

去る十月十八日 聯青の催し

才一回聯青文化研究會は、日最初の試みとして
 目的の好結果であったが引つゞき来る十
 月十八日夜才二回を同値することとなった

- 一 討論會 (ニワトリ組とオカヒコ組)
 - 一 医療講座 歯の衛生
 - 一 日常常識講座
 - 一 他家訪問 旅行中の心得
- (此ノ稿六頁上段へつゞく)

ユウカリフト

夕狩太の見學旅行

第一回

過日床屋で糸音週報子と髪の毛の黒白
問答をしたら早速紙上で仇打ちをされてお
まけにユウカリ植林見學記事の原稿の催促
まで受けた。誰やら新聞屋とは口論するも
のではないと言ふたがほんとうだね。

最初見學旅行参加申込者が二十名を越す
盛況だったが、いざ出発の晩になつたら、高橋
フルテンシヤ債券氏と二名のモッサをエキストラ
に加へてやつと十五名の団員が出来た。団体
賃乗車券は十五名以上の場合に限るので汽
車のクダ乗りも人集りに一苦勞したらしい。
霜出千カリ博士が統率者として同行するものと
思つたら、イアクリ駅の暗いフラットホームから
消え失せた。或る重大政治問題で多忙を極
めて居ると見える。

俄かに駅頭会議を開いて旅先の案内に通ずる
ウニソンの藤川ユウカリ屋さんとボンボン氏の伊藤
青年技師に団体の責任者と通訳になつて貰
ふことにきめて一同乗車。高橋さんは二つの
新聞と縁があるので週報記事のことは一任
して農閑期を利用して夕夕の汽車にのせて
あちらこちらの見物は命の洗濯だ。目の保養
だ。とのんきに撮えて一週間の愉快に過ぎた。今
ごろになつて週報子から記事を催促されるのは
心外だが自分としてはうまいこと責任回避した
つもりだったが此の頃一ヶ月とうしたのが週報
が届かず一講読料を支拂はんと、こつこつ目にあ
ひます。高橋さんが書いてくれたのやら、こつ
やう見ていないので知らないが高橋も海十字
の御人柄故、百姓のあまいおだてに乗らなかつ
た。とら、とんだ失敗だ。何とかお茶をにじし
て責任を果さねば又糸音が原稿料先拂だ。
なとあること無いことおひふらすので、うらさく
てならん。そこで一ヶ月前の記憶をたどつて取
文をひねる。

団員一行の顔振は様々で白髪あり、ハゲあり
青年あり、花はつかしい娘ありで各々の目的
も一様ではなからうが此の度は、パウリスト鉄
道の乗心地のよいことユウカリをほめることは
お互い忘れないうにしようと思合せて、パ
ウリスのお百姓はエケケットをわきまえています
からね、車中談のガヤ／＼を拾つて見ると
「僕はユウカリを植えて薪炭でもうける」

エスピンガルト



ベルギー製 二連發 命中率百%
西瓜ころぼう (但し人間ではありませぬ)
出沒の折柄 是非本銃を以て市しとの
あらんことを
原價にて提供
おとし銃 空へ一發 西瓜ころ 去念

太郎田商店

「妾は香水の原料とりますわ」
「おれやア、ラゴアの周囲に植えて水を干す」
「バスターにニアルケル植えて製紙會社を興す」
「日本人がバイアイノを連れて奥地へ森林を開拓
したのはよいがその土地を荒廢するまゝにしてあ
らう將來の移民問題に悪影響を及ぼす、
「ろしく土地の恩に酬ゆる可うであるオホン」
「わしやア、どうせ子供に残す財産もないから、せめ
てニアルケルを植えてきませう。鷲の糞だけ
おアね、ほめられんよ」
「僕たふりして之れを聞いてゐる人達は腹の中で
考へたでせう……」
「ウシ大分ユウカリ熱が上つとるワイ、苗木專問に
やつても、もうかるゾ」
「ユウカリ植林なんてそんな簡單に行くものか、パ
ウリスのサウハは肥えるゾ。一ツ皆の裏をかいて新
薬アリコロシ製造宣傳と行くか」
「迷論愚説をのせて夜汽車はにぎやかだ、ひとり
高橋居士は必禪を組んで眼を閉じている。居
士の頭は電燈に照らされてリオの純景ホンデ
アスカルを想ひ出す
あしやべりが一としまりすむと咽喉がかわいたリ
腹がへつて来たが、情けないことにはこの汽車には
食堂車がなく停車する駅々も夜中のこととて、ひ
つそりしている。申合せによつて鉄道の悪口も
云へず、すき腹をかかえて、株もれもせず、印度
の聖者がガンジーを讃えながら、パウリスで疾やか
な朝を迎へトマカヌー」

時計と眼鏡は必ず信用ある

マルカ

御用命は必ず信用ある

高田

ユーカリツグキ

リオケラーロ

パウリスタ鉄道会社の工場と直営のユーカリ植林園一ヶアルケルある。パウリスタ本線の古い都市都心の公園は廣くはないが樹齡三百年の巨木が亭亭とそびえて樹陰のベンチは市民のよい休み場である。一本毎に樹名が立札で記してあるのは当局の親切さがよくわかる。

此の公園の番を教養ある市民にお任せしませう。といふ掲示板を見たとき感心しましたね。市民の公德心に訴へたところは見上げられたのだ。道直で木々肌には小刀のきず一つも見当らなかつた。紳士と淑女の都會です、夜九時過ぎてバルで大声立てて酒を飲む虎は見當らなかつた。この虎といふ動物は田舎町にしか居らぬらしい。

植林地の中央の研究所と博物館を見学する。ユーカリの種子を顕微鏡で検別する小さい仕事から直径一米突に及ぶトウラを見た。セードロのような軟かいユーカリからアロエラのやうに固いユーカリ迄百四十種素の木材標本が整列してある。そして建物の用材そのものが種類の違いたユーカリの組合せである。壁面には植

物に関するあらゆる図表があり陳列棚には加工品、原料の全部、たゞは香油、カウチマンコに至る迄所採しと並べてあった。

その他鳥獸、化石、昆蟲、果樹に亘る博物館としてのコレクションがある。六大州別に見た森林面積は南米はアジアと共に二八%で最大、最少はオーストラリアの三・八%。此庭の創始者が五十年前オーストラリアからユーカリの種子をとりよせられたが皮肉なもの下原産地のオーストラリアが森林面積は世界最少とほらうれたものか、一つ植林技師としてオーストラリアへ押し渡るサムライは誰か?

博物館入口サウラの正面の壁に「木の生長は遠いが後にはその陰を樂む」と英詩の一句らしい言葉が書いてあった。

薪炭や枕木にしようとしてユーカリを植える枚々が木蔭を樂む詩人の植える木のあることを学んだ。

ユーカリの採種は若木の種子は發芽不良だから古い木から採る相だ。二把高さ三十米直立するツツノの木肌を靴の底にスパクをつけ革帯で胸をくくつて猿のように枝先に登る仕事は少し寒けがしますね。

斯近の帰宅は園内縦横無盡のドライブスルー

いよく来る十月十八日

(午後一時及八時と二回)

皆様

御立ちかねの



尾上菊泉一座

の御目見得で御座います。

たしものは

新作書卸し 秋月騒動

全五幕

お芝居の外に十八番の日本舞踊。今度新しく研究修業

した三石嬢の西洋舞踊の初公演を致します

少年野球を引續き育成

シネ、バンネイランテスにマ

入場料 大人一五銭 子供一〇銭

何卒御援助願います

バス少年野球

後援會

(主催)

ユーカリツツキ
 を自動車三台に分乗してとほすのは真に快適
 ですわ、フアビンネイロってこんな気持ちですわかと
 話しながら宿に帰り着いたが後から續いた二台
 の車の連中はハンカナで顔の赤、コリを拂ひ下ら
 なくれ面をしていた、フアビンネイロの気持ちにもなれ
 ず後塵を拝すといふなきけりい御氣持がいい、
 失礼しました、旅は長い、これからですよ、どうか
 気を悪くなさらないでと口さき丈であやまりましたわ
 次はピラススンガ

コノ紀行文ハガゼン面白イネス、到ルトコト照和
 弥次モ多ガトビオス、次回リゴ期待下サイ
 筆者白頭野球居士ス

青雨 (十月六日)

新津 牛丸

雷神乃音よ競ひて夜立ち雨
 風もわとも吹き際りにけり
 十重の甘露の露の降れるを
 候いすま式する此雨はも
 甘きつけ乃ふよみ急げ志めく
 するもふれり大けりたから

三頁文化研究会よりつづく

一、諸官廳の手續きについて

一、余興シネマ

尚、文化研究会を休日の最高にするが、平日又は土曜
 の夜にすべきかを各支那役員に計たところ九月九夜
 まで夜間開催の賛成者だった、聯青では女子部員
 の帰宅時間について考慮し父兄の意見も、おねほ
 ならぬといっている、夜間の場合はカミオンにて帰途以
 ち女子部員を門口送送し届けることを要請して
 二店るので各団員も厳に身を持って荷も後の指を
 さされるがことなき様注意しなければならぬ
 辯論大会又は雄辯会
 の開催が未だたいのは近年著しく日本語の習得
 時間の関係からその素養が低下した為の之れ
 が原因は一朝一夕の事には、ゆくゆくは雄辯会
 下準備として、意見又は感想の発表会といふよ
 うなことをやり、今後の文化研究会では討論会や
 るべきになつて来る。

バスターズ対パ州バンネイランテス

遠征野球 スコア

	一	二	三	四	五	六	七	八	九	計
バスターズ	5	7	0	0	3	2	0	0	0	17
バンネイランテス	4	0	0	0	0	0	0	0	0	4

6

フレグースに御しらせ

この度私共の精米所は都合によってマ
 キナを他へ賣却いたしました、故これまで
 保管中の物は各自御引取り願ひ度
 と存じます。

前回の廣告では工場十月一日にて閉鎖
 と申しましたが精米作業を十月限り停
 止する次第にて尚暫く整理をつけます

永らく皆様の御引立に預りました
 事を厚く御礼申上り尚将来共
 よろしく御交遊の程願ひ申上ります
 十月一日

共同精米所

松本 久雄
 堀本 節雄

野球遠征ついでに
 製糖工場見學

西
 徹

。印象にのこるバンネイランテスの町

十月四日(土)午後一時分パラナ州バンネイランテス
 向けて選手十二名、内今年度少年バッテリー佐伯
 林の小選手を加へ、ホリウー二名のメンバーといふ心
 細くで出發した。

実の所先月二十八日試合との申込みで其の日
 ならば、すむる日ルセリアに於てパ線大会に戦
 った選手一同渡航なく行けるのであったが先
 方の都合で十月五日に延期して未だのやむを得
 ず、少年級の選手をわが陣容より逸し
 若い少年上りの者で遠征の途についたのである
 ランシリア、パラナス、アリス、カモッタと断つて
 休みつ、州境のパラナパネマ河をバルサで渡る
 身處からいよいよパラナ州、あの有名なパラナ
 のホエーラを沿ひながら目指すバンネイランテス市
 に着いたのは七時半、長途二百キロ餘を六時間
 で突發したわけである。

多数の野球関係者に迎へられ、心算しのジャ
 ンナーを頂いたのち疲労回復の為の選手一同

養鶏契約者募集

六、五×八〇米 瓦葺の鶏舎あり
三人位就働出来る家族を求む



一切の委託あり
住宅、井戸
其他完備

久留リア工区四組

竹條崎長五郎

早く後に就く。

十月五日九時試合開始、敵はパラナでも有名な森部投手をマウンドに立て昨年の選手と変わりがない。こちらは、田中、森越とバツテリ。一壘有北、二塁佐伯マノ、三塁佐伯時也、遊撃渡谷、左 嶋原次中、渡辺、右 嶋原三、と、レフトでは多少の弱点もあるが、可成りの所まで行くと内心はそぞろ、元氣一ぱい、体當りでぶつかっていった。

こちらは先攻、相手の投手の肩のきまりぬうちによく選球して夏つとほし初回大挙五点を占めた。裏ではこちらの田中投手もあがり氣味で球がまきまき四点を許した。二回からは田中も落着き見事な投球振り、おまじ打たれども守備堅くエラーなく最後迄一点も許さず頑張った。こちらは毎回押し氣味で点を稼ぎ遂に十七対四で快勝した。案外期待外れの感じだった。

聞けばパラナでは四月末の地方選抜野球大會の選手撰考の際、後選も同時にやり、其時全伯出場の代表が定るので代表にもれたチームは其後つと目標がない為めに選手も練習を怠り勝ちになり、こんなままで、此度の試合でいい薬になりましたと向ふの関係者はしんみりと語った。又代表になったチームも

パラナの他のチームがそんな状態で相手に勝つて試合をしないので九月の全伯大會迄一人で練習しなければならず、それがサンパウロ州の大會同際まで練習し予選を突破して来る代表に歯が立たないのは当然と今年のファイ代表を倒しあげてなけりていた。成程とうなづける話である。来年はもうしても聖州のやり方を

提唱するんだと語して居た。晝食後向ふの関係者選手等に件はれて

アキラヤラといふ所から八キロは離れた温泉に案内して貰った。そこはすべての皮膚病に効くスルフォウの湯が沸き大きな建物の中にいづもの風呂が作つてある。病人が遠方から湯治に来る相である。又一般の遊園地として大きなアパート式のホテルがありその前に四十×五十米といふ大ピシナが設けられ中央から温い湯が噴き上つて居る。この大プールは皮膚病の者は入浴を禁せられ一般は入場料十五銭拂へば入場出来る。吾々も一泊し、そこで泳ぎ、浴後あちこちと見物した。中々風景のよい所で低地には湖水がありホトも涼かんで居る。釣も出来る。よそから遊山にくる人が多く、日曜日は押すを押すの賑さだといふ。もしバストスにこんなところがあつたらうとんなに大勢の人を引きつけることだらうと羨ましくなつた。

午後四時其處から直接自動車で、所から五分間位でゆける所にある製糖工場の見学につれて、行って貰った。此の工場はバネラス市長の個人経営で昔その人はカマラタを以て居たにせよあり今はパラナでも指折りの大製糖工場にのし上がった成功者である。

普通の従業員と親しく話をしているのだから、紹介された時は、こちらが面喰ふ程人なつこい人でその代り余り風采のようぬ方だった。

我々の来意を告げると無造作にとこでも見してくれといつて、ウジナで生水、ウジナで五月、今まだメカニコとして働いて居り、製糖工場の事なら何でも知つて居ると言ふ支配人格の人に案内を命じた。

最初カナの入る所から丁寧に順々と幾つか並ぶ大きな器械の前で砂糖とアルコールの分れ等を詳しく説明して、砂糖が純白となつて出てくる迄約二時間中つくり見学させて貰った。(次号で入り)

入営日変更

前号所載入営兵は十月十日市役所前に集合と布告されたところ市役所兵事課よりパウルーヨリの指令にて十月十五日に変更した旨通告を来た。市役所は都合によりアネフル街の上の方セツテテセテナフ街の交又点北東角へ移轉しました。中存ない方へ！

なつかしの母國の味

しいたけ 椎茸 するめ かずの子

こんやく粉 厚板こんぶ

海苔 寒天 いがれもほんもの

さつと入荷いたしました
母國の味覚をお楽しみ下さい

カーマ、ビトリリア

山本商店

電柱、樹も始む

鐘に忍みは数々ござる、いやバストスでは皆もうくたばれて文句をいふものは少くなつたが、まことに電氣には困つたものでござる、石橋さんもどんなにか辛からうと皆が同情して言はぬだけのものだか腹ん中では悪癖をこぼしてをるのでござる、水力は早く来ないかなア、ジョージヨルジめ火力をやると公約しながら一体いつよこすのかなア、太郎田さん一べんこいそくして呉れんかと思つていると、忽ちアベニーがバウ、スタに電柱が立つた才だ立つたばかりで線は張つてないが氣の早いオッサン、進歩したものだ、電線電氣か、あわてなさんなせの中は我長にわたるものです。

バストス十日會

ストラタクの御馳走

スラ 拓聖市本部拓植主任阿部邦彦氏並佐藤 氏は十日来植市中重寄ホストを歴訪後、六月結成された十日會の面バアを佐野食堂に招待して御馳走することになつた、席上干支(正)の話になり、施主の阿部氏、石橋氏、水馬氏、古田氏、農田氏、西氏、何れもインシンド判明道理で向不見すの突拍はかり、一そ十日會など、面倒なことはやめにして、インシシにしようではないかと衆議一決した、インシシ會の目的は飲み乍ら馬鹿話エ口話自慢話としてお互に仲よくなるのが狙いらしい、バストスの一元化などと六ヶ敷しいこといふか、いけるいので胸襟を開いて心から親愛の仲となれば、いやでもカクテル見たいになつてしまふといふのらしい。

生徒募集

入學 いつからでも即隨意

- 普通科 六ヶ月
- 速成科 三ヶ月
- 研究科

外に御料理の講習

寄宿舎の設備完備して居ります、生徒さんは責任を以て御預り申します

新校舎幼稚園の上隣り角

サンタレジンニア (福達すえ子経営)

福瀧裁縫女子校

水間さんのパンネイランテ組合では、ホッ、換金がだぶつた始めたので、吹本銀行へ金をもつてゆく、何でも五万コソト位は将来たぶつたらしい、銀行でもそんなにもつて来られては支拂利息過剰で迷成金極何とかよい方法はあるまいか、とる、目下一番金融不如意である産組で之を借りてやる、成程、道はいろ、とあるものだ、中に一枚銀行がはさまつて居れば、たぶつた方も安心だ、やはり時々集つて馬鹿話をするものだ、と大笑い、賑に笑つて散会した。

尚聖市本部から来植した佐友氏は地権と早く地主にとつて貰ふ爲めに、公夫事務所へ応援の爲め、暫く滞在との事

パイニアの夢」は記事編輯につき、休載

農業講演會

来る十月廿三日(木)午前十時より産業會館に於て、ドトール村山耕人氏及トトールカルロス、の農業講演會が開かれる、村山枝師は主として蔬菜バスタトマテを中心として話され、カストロ氏は、樺作及農薬品について説明される予定である、村山枝師は数ヶ月前者一度来植、これ実習的の薄話をし、好評を得たこととがある、アラジルの話のよくわかる日系諸氏は是非来聴されたい、又葡語の不得手な人でも日本語で判りやすく説明があるから一人でも多く来聴者と致近してある、因に帰りのジャムカネイラの出る前に薄演をすまます、主催者側で司令するといふ。